



# 国際室 だより

No. 51



Sakchai Pokawanvit (タイ),  
通称サクチャイ, 工業省鉱物資源局  
沿海鉱物探査・遠隔探知部, 地質技  
師

来日以前は日本が経済面での  
み強大であるとの印象をもっ  
ていましたが。こちらで1ヶ月程  
生活してその他の面でも種々印  
象深い国だという事が分かってきました。

まず資源の利用管理です。成田空港に着陸した際、国土が大変効率的に利用されていることに気付きました。水資源はうまく管理され、森林も良好な状態に保全されているようです。次に日本の人々についての印象です。日本の人々は正直で魅力に富んでいます。友人や知人をもてなすのが伝統のようです。また中国人を両親にもつ私には日本食がこの上なくおいしく感じられます。つくば市付近の気候も素晴らしく、ハイテクを駆使した建築物に混在して多くの伝統的日本家屋を見ることができません。私自身まだ宿泊の経験はありませんが日本式旅館がかなり残っているようです。日本文化を保存していくためにもこれは大変良いことであると思われま。こうした数多くの美点と共にひとつだけ醜悪なものに気付きました。それは路上に投げ捨てられたゴミや空缶です。親切で魅力に溢れかくも素晴らしい日本の人々がなぜこのような事をと理解に苦しみます。とにかく来日できて大変嬉しく思います。本コースでは勉学に励み是非大きな成果を得て帰国したいと思っています。

(文責, 木下・湯原)

これまで3回に分けて、沿海鉱物資源探査集団研修コース研修員による、海外から見たアジア東端に位置する日本と日本人について語ってもらいましたが、この時点では来日して日も浅く、まだ本質を見極めるまでには至っていないようです。しかし、その第一印象として、20の異なる色をした瞳は、“日本人は親切で、礼儀正しく、勤勉である”と共通して語っています。また、日本については一様に、第2次大戦後の我が国の急速な発展に対

して臉を見開き驚きの色を表わしています。来日を機会に、この我が国の急速な発展の本質を学び、自国の発展に貢献したいと多くの研修員が述べていました。

来日以来6ヶ月が経過し、この間、工業技術院研究協力センターにおいて行なわれた4ヶ月間に亘る講義・実習を通し、多くの講師の方々と触れ合い、日本と日本人についても多くの事を学んだようです。また野外実習と研修旅行では日本の各地を見て廻り、日本の自然・産業・文化についても理解を深めたようです。特に、6月に実施された北海道研修旅行では天候にも恵まれ、一同その自然景観のすばらしさに強く印象付けられたようです。北海道は開発と自然環境との調和がとれた理想的な地域だと後日その感想を述べていた人もいました。白嶺丸での乗船実習と沿岸海域調査実習では日本の研究者、乗組員、学生と寝食を共にし、一緒に調査作業にあたり、日本式の調査システムも理解しました。食と言えば、和食もいろんなところで御馳走になったようです。ある研修員は、北海道で御馳走になったシー・パイナップル(ホヤ)は、普段、食べ慣れているパイナップルとはまったく違った味で、言葉に表わせない奇妙な味がしたと申していました。ホヤこそ世界の筆舌の味かもしれません。このように日本各地を訪問し、多くの日本人と親交を深めた現在、彼らの日本と日本人に対する印象はずいぶん変わってきているものと思われま。いずれにせよ、研修員は、周囲の方々の御厚情、訪問先での手厚い歓迎を受け、一同より親日家としての度合を増幅させたと確信しています。技術的な研修のみならず、こうした研修では海外からの研修員に日本と日本人について正しく理解を深めてもらう事も重要な課題のひとつであると考えま。きっと今年の研修員も帰国後、家族、友人に自分の瞳に写った本当の日本と日本人について語ることでしょ。そして将来日本の良き理解者として我が国のためにも活躍してくれるものと確信しています。瞳の色は違っても、日本と日本人を見つめる彼らの瞳は輝いていました(木下泰正)。